

SDGsの進展

- 企業経営にはSDGs（Sustainable Development Goals）の視点に則ることが不可欠です。
- 特にSDGs（ゴール）に向けた企業の活動（プロセス）と言える「ESG」について取り組みが加速しています。

「世界」の目標
(ゴール)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「企業」の取り組み／「投資家」の視点
(プロセス)



Environment



Social



Governance

2030年に向けた「行動の10年」が開始。

CGコードから見るESG推進

- 改訂CGコードにおけるESG関連については、サステナビリティの取組みを開示すること、特にプライム市場上場会社は気候変動への対応とTCFD枠組みに基づく開示を進めるべきと明記されました。

コーポレートガバナンス・コード (補充原則)

2－3① 取締役会は、気候変動などの地球環境問題への配慮、人権の尊重、従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇、取引先との公正・適正な取引、自然災害等への危機管理など、サステナビリティを巡る課題への対応は、リスクの減少のみならず収益機会にもつながる重要な経営課題であると認識し、中長期的な企業価値の向上の観点から、これらの課題に積極的・能動的に取り組むよう検討を深めるべきである。

3－1③ 上場会社は、経営戦略の開示に当たって、自社のサステナビリティについての取組みを適切に開示すべきである。また、人的資本や知的財産への投資等についても、自社の経営戦略・経営課題との整合性を意識しつつ分かりやすく具体的に情報を開示・提供すべきである。

特に、プライム市場上場会社は、気候変動に係るリスク及び収益機会が自社の事業活動や収益等に与える影響について、必要なデータの収集と分析を行い、国際的に確立された開示の枠組みであるTCFDまたはそれと同等の枠組みに基づく開示の質と量の充実を進めるべきである。

4－2② 取締役会は、中長期的な企業価値の向上の観点から、自社のサステナビリティを巡る取組みについて基本的な方針を策定すべきである。
また、人的資本・知的財産への投資等の重要性に鑑み、これらをはじめとする経営資源の配分や、事業ポートフォリオに関する戦略の実行が、企業の持続的な成長に資するよう、実効的に監督を行うべきである。

企業の取るべき対応の認識

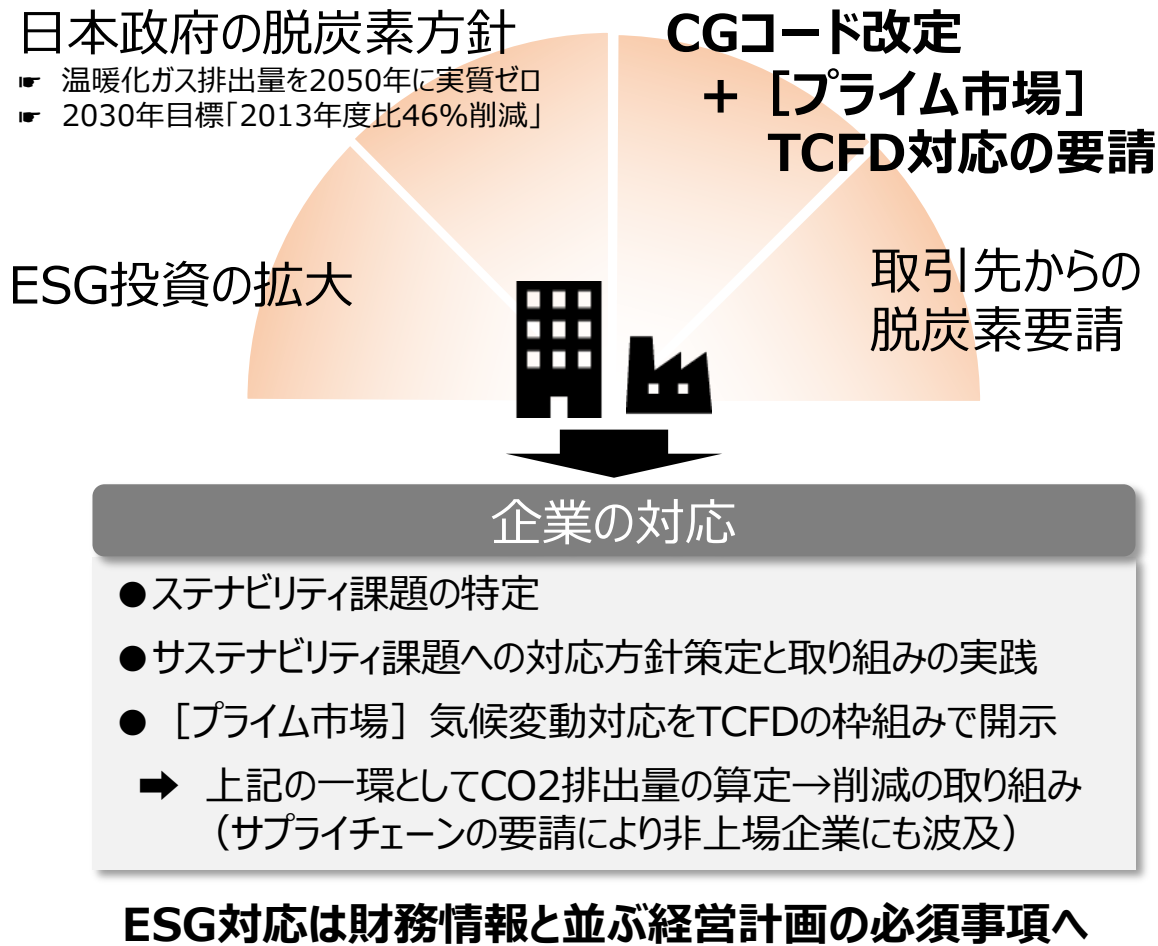
① 自社にとって重要なサステナビリティ課題を特定すると共に、課題への取組みを開示する

② 気候変動への対応について、TCFD枠組みに基づいて開示する

③ サステナビリティ課題への取り組み方針（将来的な）を策定する

企業を取り巻くESG対応の必要性和コンサルティングメニュー

- 2021年6月のコーポレートガバナンス・コード改訂や、サプライチェーンからの脱炭素要請は、企業の「ESG」を加速させています。
- 日本経営システム(株)では、財務情報と並ぶ経営計画の必須事項へなりつつある「ESG対応」について、企業の皆様の【①サステナビリティ課題整理、②（重点を絞った）TCFD対応、③CO2排出量算定】などをご支援しております。



JMS × ESG
JAPAN
MANAGEMENT
SYSTEMS

- ① サステナビリティ課題整理
- ② （重点を絞った）TCFD対応
- ③ CO2排出量算定
(Scope1・2・3)

JMSが考えるESGのポイント

- JMSが考えるサステナビリティ、特にESGにおけるポイントは3つです。
 - ➔ CGコード対応のみではなく、社内での共通認識の醸成や経営計画への反映の筋道を立てることで、ESGに関する動きを組織に根付かせていきます。

ESG

×

JMS
JAPAN
MANAGEMENT
SYSTEMS

① ESGの重要性と自社課題の社内浸透

- ✓ 単にCGコードに対応するというだけでなく、「なぜその取り組みが必要か」の理解を共有化します。

② CGコードの要求への適切な対応を順次始める

- ✓ 一足飛びに高いレベルを目指すのではなく、会社に適した進め方を見極め、きちんと根付かせるようにアプローチいたします。

③ ESG課題を経営計画へ反映する筋道

- ✓ ESG課題を認識し、全社的な実践に向けて経営計画に反映させていく流れを醸成します。

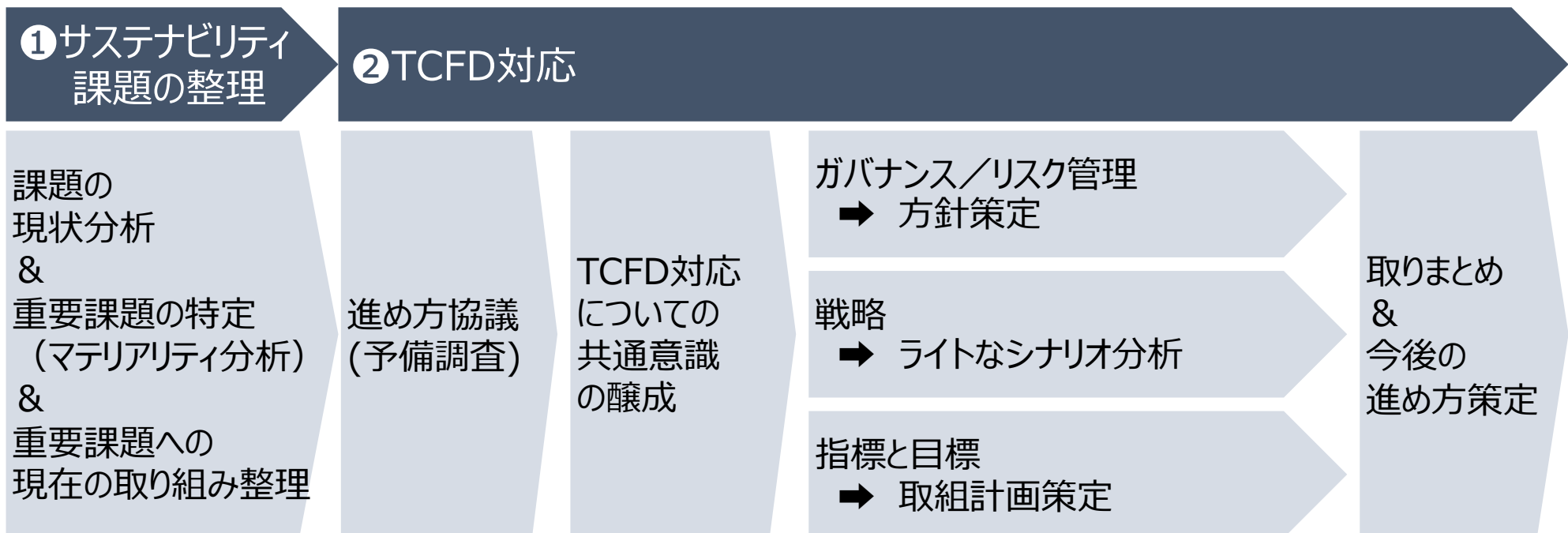
調査フローとスケジュール

- ①サステナビリティ課題の整理で約2か月、②TCFD対応で約5か月を想定しています。

約2か月 ※

約5か月 ※

※ 2~3週間に1回程度のWG実施を想定



①サステナビリティ課題整理

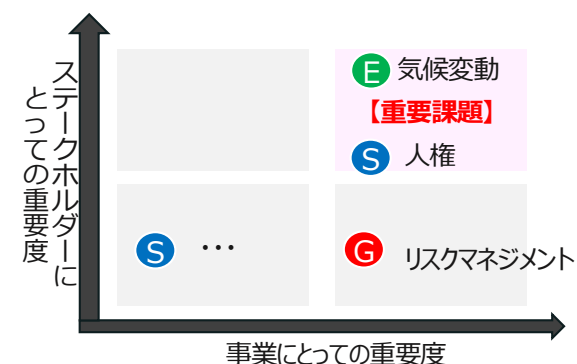
- サステナビリティ課題整理では、自社にとっての重要なサステナビリティ課題の特定に取り組み、その課題への取り組みの整理を行っていきます。

1. 現状分析

- ➡ (ベンチマーク調査) : 業界内の競合企業が、何をサステナビリティ課題として認識しているか調査する。
加えて、販売先の企業を調査し、サプライチェーン上の動向がどう影響するか確認する。
- ➡ (外部公開情報調査) : SASB、S&P Sustainability yearbook等で挙げたセクター別重要課題を確認する。
- ➡ (自社分析) : ベンチマークで重要となった課題について、自社における課題としての重要性を確認する。

2. 重要課題の特定 (マテリアリティ分析)

- ➡ マテリアリティ分析を以下の2軸で行い、課題の中でも特に重要なものを特定する
 - ☑ ステークホルダーにとっての重要度
 - ☑ 事業にとっての重要度



3. 重要課題への現在の取り組み整理

- ➡ 特定した重要課題について、現在の取組み状況を整理する

ESG	社会課題	関連するSDGs
E	気候変動 ...	13 気候変動
S	人権 ...	10 人や民族間の公平
G	リスクマネジメント ...	11 持続可能な都市とコミュニティ

②TCFD対応

- TCFDの視点のうち、起点となる「戦略」に着目し、CGコードの要求を踏まえたTCFD対応から始めます。
「ガバナンス」「リスク管理」「指標と目標」については、可能な範囲での適切な開示を図ります。

TCFDでの主な開示4要素

☑ ガバナンス	☑ 戦略	☑ リスク管理	☑ 指標と目標
気候変動リスクと機会に係る当該組織のガバナンスを開示する。	気候変動リスクと機会がもたらす当該組織の事業、戦略、財務計画への現在及び潜在的な影響を開示する。	気候変動リスクについて、当該組織がどのように識別、評価、及び管理しているかについて開示する。	気候変動リスクと機会を評価及び管理する際に用いる指標と目標について開示する。
マネジメント層はどのように監督しているのか？	リスク・機会の影響と対応をどう考えているか？	リスクに対してどのようにマネジメントしているか？	≒どのようなCO2排出量削減目標を掲げてるか？

